



久保厚子さん

(全国手をつなぐ育成会連合会 会長)

滋賀県生まれ。長男の誕生をきっかけに、育成会をはじめ様々な活動に携わられるようになり、サマースクールを市の委託事業とする動き、社会福祉法人しが夢翔会（①）の立ち上げなどにも尽力されました。社会福祉法人全国手をつなぐ育成会の理事長も務められ、二〇一四年には社会福祉法人格の返上を決意、解散後は、任意団体である全国手をつなぐ育成会連合会の会長として、現在も、日々本人やその家族の目線に立ち、活動を続けておられます。

息子が生まれてから

齋藤 活動に携わられるようになるまでのことからお話を
おうかがいできますか？

久保 昭和五〇年に先天性十二指腸閉塞で息子が生まれ
て、生後三日目で手術をして、ひと月後に癒着でもう一回
手術をしてというので七か月まで病院生活をしてたんで
す。一〇か月で退院したけれど、発達相談に行く中で、大
津の障害児父母の会を紹介されて、そういう会に入った方
がいいよと言われたんです。先輩もおられて、いろんな話
も聞けるというので息子が一歳の頃から顔を出すようにな
りました。

息子が一年生の時、障害児父母の会はサマースクールを
やつていて、その中でバザーなどのお手伝いに行っている
間に下に娘が二人生まれて、息子は七歳まで歩きませんで
したから、ミルクと一人分のおむつを持つて、上の娘に私
のどこかを持たせて、〇歳だった下の娘を抱いて、六歳だつ
た息子をおんぶしてみたり（笑）。そんな感じでいろんな
なところに行つてたんですね。

齋藤 なかなか壮絶な光景ですね。

久保 そんなんだつたですね。だから、息子は、一年生か
ら北大津養護学校に行つてるんですけども、息子が卒業
する時に当時の担任だつた先生とお会いいたら「お母さ
ん、あの時は悲惨でしたね」って言われて、本人は悲惨だ
とは思つていないので悲惨に見えてたんやと思いました
(笑)。そんな中で、父母の会はお手伝いに行つてただけな
のに、息子が三年生の時に、いきなり会の会長になつたん
です(笑)。だつて子ども三人も連れてるんですよ？そん
な役に立つ訳ないじやん(笑)。

齋藤 最も会長にしたらあかん、という(笑)。

久保 そうでしょ(笑)。わからないままに入つて、なか
なか足を洗えずに今日に至つてます(笑)。

会の仕事に追われる日々

齋藤 育成会の理事長職に就かれてから三〇年ですね。

久保 当時は、大津の父母の会と大津の育成会と、大津の
肢体不自由児父母の会の三つが連合会をつくつて要望を出

①社会福祉法人しが夢翔会：・滋賀県大津市にある社会福祉法人。平成八年に設立。
障害者支援施設の運営のほか、生活介護事業、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、

移動支援事業、日中一時支援事業、指定相談事業、共同生活援助事業など様々な事
業を展開。現在、久保氏は理事長を務めています。

したり、クリスマス会やバス旅行は合同でやつていたりしたんです。会長も副会長も会計も毎年順番に回してて、みんなよくわからんままにぐるぐる回つてたんです（笑）。

齋藤 大津障害児父母の会は、ずっと久保さんが会長を務めておられたんですか？

久保 いえいえ、私は四年ぐらいです。平成元年頃に、大津の育成会の松田寅三郎さんと、大津福祉会の前理事長でお医者さんの光吉先生が呼びかけ人で、大津のいろんな団体が集まつて入所施設をつくるうというので、推進協議会を立ち上げたんです。その時に光吉先生は顧問で、松田さんが会長で私が会計だつたんですが、松田さんが一年ぐらいで体調をくずされて会長をおりられたので、顧問だつた光吉先生が会長になられて、また、松田さんが大津の育成会の会長もお辞めになつたので、別の方に会長になつていただいて、私が副会長に就いてその方の補佐をして、結局はガル（②）ができるまでずっとその推進協議会の事務局長を務めていたんです。会長の光吉先生はお医者さんですから、私達親が会議をする昼間は出て来られないので、事務局長だけど私が中心になつて会をまわしていました。平成八年に夢翔会の理事会ができて、平成九年がガルのオーブンですから、まだ連合会の事務局をやりながら育成会の役もやつて、夢翔会の副理事長もやつてたんですね。

齋藤 ずっと子育てしながらですね。

久保 小さい子どもを連れながら夕方遅くまで会議があつたりするので、子どもの為に一生懸命やつているつもりなんだけれども、子どもを振り回してるんじやないかなと思うような時もありましたけどね（笑）。

齋藤 日々の暮らしはどうでしたか？

久保 子どもが小さいうちは、なかなか大変でしたね。子どもの面倒と家の事を先にやつてから会の活動をしないと家族から文句が出ますから（笑）、ある程度きつとやろうと思うとすごく忙しかったです。家のことやりながらも頭の中は会の活動のことを考えながらとか。帰りに買い物をしてバタバタとご飯を作つてみたいな感じで、夕飯が遅くなるとみんな半分こつくりこつくりしながらごはんを食べてましたけどね（笑）。それで、会のことは子ども寝かしてからで、徹夜することはよくありました。息子を抱えながらですので、なかなか思うように活動できないというのも自分の中にはあつたんですよね、やっぱり。中学一年生の時には手術もしましたしね。学校のPTAの役員もしながらだったので、けつこうお家の中はひつくりかえつてました（笑）。

齋藤 役が回ってきた時に断るということは・・・。

久保 それね、それがね（笑）。いつも皆さんに言つてるのは、何にもようせんけれども上手に断ることもようせん

からこうなつたつてね。私も、一応断つてるんですよ(笑)。

ひととひととをつなぐ

齋藤 会でこういう事をしようという思いもあつたのでしようか?

久保 私が父母の会の会長になつた時に、サマースクールを自分達でやつてたんです。それをやるには人数も多いし資金作りも頑張らないと開催できないというので、市にお願いに行つて委託を受けるようにしたんです。それは一步前進だったかなあつていうふうには思つてはいるんですけども。滋賀大の学生さんにボランティアにも入つていただいてやつていたんですが、学生さんが行政を信じてなくて、そんなことしたら自分達が思うようなサマースクールにならないから嫌だというので、ほとんど徹夜のような状態で何日も話しましたね。で、一生懸命に説得をし(笑)、行政には会場とお金は出して口は出すなみたいなことを訴えたりして(笑)・・・。

齋藤 実際にそうなつたんですか。

久保 そうしてもらいました。行政の理解や協力があつて、学生さんともそのまま上手く続いて。だから、今もサマー

スクールは委託事業でやつていて、ずっと続いています。今は、高校生にも声掛けをして、比叡山高校の高校生もけつこう熱心に来てくれて、それから福祉の道に進んでくれている子もけつこういますしね。

齋藤 サマースクールで障害のある子に出会つて福祉の道に。

久保 けつこうおられるんですね。

齋藤 四〇数歳ぐらいの方々から、学生時代にサマースクールで出会つてみたいな話をよく聞きますね。

久保 そうでしょ。私達が一生懸命手弁当でサマースクールをやつてる時ぐらいの学生さんが養護学校の先生になつたりとか、福祉の職場に・・・。

齋藤 今、もう、施設長クラスぐらいになつてはいる年齢ですもんね。

久保 そうそうそう、そうです。はい。

齋藤 サマースクールは、滋賀県でも大津の取り組みが進んでいるのでしょうかけど、県内全体で言うとどうなんでしょう?

久保 大津がうんと早かつたんだと思います。ですから、冒頭に申し上げたように、障害児父母の会と育成会と肢体不自

由児父母の会が、四〇年以上前から連合会というのをつくつて活動していますので、市に対する要望も連合会でしますから、そういう意味では行政に働きかける力はあつたと思います。一団体でなくて、三団体でがつて行くから（笑）。

齋藤 その連合会は、行政に対してもメリットがあるのでしあうね。

久保 もともと連合会をつくる時には、行政が一つになるようと言つたんです。

齋藤 やっぱりその時の先頭に立つておられたんですか？
久保 まあ、そうですよね。

齋藤 そうですか。その、何て言うんでしょうね、交渉する時のモチベーションっていうか、なぜ、先頭に立つて行かれたのかなっていうのは。

久保 だから、成り行きだつて（笑）。私かて、持ちたいと思つていないんです、旗は。持ちたいとは思つていないけれども、それでも、今私達が困つていることをなんとかしないとという気持ちの方が、たぶん大きかつたんでしょうね。みんなで言いに行く前に、日程を調整したりいろいろありますね。みなさんが行きにくいんだつたら、それはみなさんのお手伝いをさせて頂く為に、調整してきますみたいな感覚なんですね。だから、全然先頭に立つていて、という意識はなく、旗持つてみんなはよ来いっていう意識

もない。ちょっとでも今ある困りごとを解消しないと、自分の子どものことだけじゃないのでね。お願いをしてなんとかなるのであれば、やっぱり、行政レベルでの制度といふか仕組みが整わないと、みんなが良くならないみたいな感じがあつて、それだけですよ。

齋藤 担当者にもよるんでしあうけど、行政との交渉はわりと上手いくのですか？

久保 親同士でも行政相手でも、苦手な人はいないです。だから、行政と今まで話をしても、その方の立場の思ひというのもあるし、同じ人間だから話せばわかり合えるみたいな感じで、そんなに嫌な人はいないんです。だから、今までの交渉事でも、一緒に行つた仲間はすごく怒つてたけど、私が頭下げてよくなるんだつたらいくらでも頭下げますよ、みたいな（笑）。あまりものわかりがよくなるとよくないのかもしれないけれども、でも、立場がそつたらそういう言葉が出てきても、それもありかもね、みたいな（笑）。でも、やっぱり本人やその家族の事情もわかつてほしいという思いがあるので、私の立場はやっぱりそれでもこう言います、と。こういうことにみんな困つてるので考えてほしいんです、なんとかしてほしいと思つて来てるんです、みたいな、そんな感じですよね。でも、けんかにはならないし、相手の立場はわかりますよ。

齋藤 それが委託に繋がったんですね。

本人を中心におきながら活動する

久保 ただ、今回のように解散させるとか、所々で大きな決断しないとダメな時もあります。

齋藤 大きな決断でしたね。

久保 大津の三団体を連合会ということで一つの団体にしたというのも、実態として、肢体不自由児父母の会は三〇人しか会員がないのに、役員を回さないとダメでしょ。だから、もう役員のなり手がないとか、それぞれにいろんなことを言つてるんですよ。だったら、一つになつたら何百人つていう組織になるわけだから、それだけでも行政に対してものを言つてもなるし、障害のある人達にとつてプラスになることを考えればいいというふうに思つて、その名前にもこだわらざるに、大津は育成会という名前はついてないんです。

齋藤 何という名前なんですか？

久保 障害児者と支える人の会ですね。親以外の人も入れる、そんなネーミングにされたんですね。大きな決断しないとダメな時は、やっぱり障害のある人が人として尊重されて、少しでも豊かに暮らしていけるような活動ができることが大事なので、理念をしつかり持ちながら、本人を中心

心におきながら活動する、そこが大事なのであって、組織の形態を守る活動が私達の活動ではないということには、必ず立ち戻るようにしているんですね。全体をできるだけ見るよう、その見る目つていうのは、その障害の人を中心にして考へるようになつてから、新幹線の窓から見える景色の中にも、障害のある人が必ずいるんだなっていう思いになるんです。そして、そういうところまでちゃんと行政の手がさしのべられてるんだろうかとか、いろいろ思いながら、窓の景色を見ていると・・・なかなかですよ。そう思いながら見てるんだけれども、そのうち寝てしまふという（笑）・・・そこがね。

齋藤 そこが長続きの秘訣（笑）・・・
久保 そうそうそうそう（笑）。

幼い頃から培われてきたもの

齋藤 久保さんの、そのぶれない感じと、しかしながら嫌いな人がいなっていっているのは、どういうご経験から培われてきたのかなあと想いながらうかがっていたんですけど。
久保 実家は酒屋をしていますから、蔵だとか倉庫だとかいくつかあるので、生活が成り立たなくて暮らせない人が

いたら、そこをちょっと改造してここで住みつて言つて住まわしてあげたり、そういう家庭だつたんですね。だから、上の兄がまだ学生時代に、私は小学校の低学年ぐらいで、小鳩乳児院（③）とかそういう所にいろんな手作りだとか、自分達の要らないオモチャだとか持つて遊びに行くつていのをやつていたんです。

齋藤 そういうことが日常だつたんですね。

久保 だから、ボランティア活動に行くつていうのも、小さい時から兄と一緒にくつついて行つたりして、単なる遊びに行くみたいな感覚で普通のことだつたんです。あと、誰とでも仲良くなれるつていうのは、すぐ上の兄によくいじめられたんです。母親には、あんた女やから我慢しなさいって言われて、もう我慢できひんと言つてもそれでも我慢をしなさいって言われる、そういう家庭だつたんです。

齋藤 女性は我慢しなさいつていう。

久保 我慢しなさいつていうので、鍛えられたというのもありますけれども、母親が早く亡くなつて、一歳から世の中のことをしないとダメとなると、いろんな方に教えてもらわないとつてなつて。それと、やっぱり商売をしているというのがありますよね。こつちに非がなくとも、お前のところが悪いつて言われたら、ぐつとこらえながら「申し訳ありません」と言つて頭を下げないとダメだから（笑）、

そういうのもあるんだと思いますよ。

齋藤 もつと理不尽な我慢を経験してきているから、相手の立場に立つてみるぐらいのことは我慢とは言わない、と。久保 この人の立場だつたら、そう言わざるをえないよねつていうのはわかるので、腹は立たないですよね。

齋藤 相手の立場に立たれて想像されるつてことも、どこで培わせるんでしょうね。

久保 意識してないから、自然になつてきてるんですよ。

形を変えても受け継いでいくもの

齋藤 育成会の解散にあたつては、全国を行脚されたとのことです。

久保 今まさにもう解散させたから、今度は解散して良かつたんだねとみんなに思つてもらえるようにしないとダメなので、フォーラムやつたり研修をやつたりワークショッピングをしながら、育成会だからこそできる勉強会だとか、その勉強会を通して「よし頑張ろう」と思つてもらえるように、戦略的にみんなが動かざるをえないような仕掛けをしていかないとダメだと、今つくづく思つているんです。

国が、解散して無認可でも同じように扱つてくれるの、全国に組織があつてそこから会員の声が集まつて、国に届け

ることができる、また、国の施策を知らせて、こうですよと言うことができる。そういう組織があるから今まで通り扱つてくれていいわけだから、だからその組織が歯抜けのようになつていいつて、なくなつていくつていうような形になると、それこそ私たち三役がいても何の役にも立たないような形になるから。根っこが大事なんですよ、根っこがね。それこそ、糸賀先生にも随分とお力添えいただいて、全日本育成会もできていますし、各地の育成会を立ち上げる時もご尽力いただいて、深い関わりがあるんですね。だから、その思いみたいなものも大事にしていきたいし、偏見や差別の本当に厳しかった時代に精神薄弱者育成会っていう名前を付けているつていうのは、偏見と差別とかあるけれども私達は精神薄弱児の親ですって、胸張つて言つてているわけでしょ。いったん解散はしたけれども、育成会として立ち上げた時のその勇気とか熱意とかそういうものを、その時の魂を、私達は受け継いでいるはずだつていう言い方をしているんです。そこが育成会のスタートした原点でもあるし、最初の思いもあるし、今でも変わらないと思うんですよね。ちょうど、手をつなぐ親たちの第三号に糸賀先生に書いていた正在する文章があつて、

PDFにして全部の育成会に配つたんです。私達の活動の原点を大切にしながら、でも、今の時代に合つた理念や目的とか、そういう根っここの部分はずっと引き継いでいて変わらないのだけれども、今の社会情勢の流れとかによつて私達の活動のやり方を変えないと時代に遅れてしまう。

そういうことを話すと、必ず最後には糸賀先生のことが出てくるんですけども、やっぱり、今でも通じる教えが糸賀先生の言葉の中にいっぱいあるのでね。私達の育成会がスタートした時に、糸賀先生が書いてくださつたことが根っこになるつていう、その思いをずっと繋いでいつて活動しないとダメだなあつていう思いがあります。だから、親だったら特に福祉つていう目線ではなくうちの子みたいな感じで見ているわけだから、困りごとだとか悩みごとだとかがあって、そこにぴつたりくる言葉があるんですよ。私達はその時期を通り過ぎても、若いお母さん方は同じ悩みを持つておられるわけだから、そういうことを伝えていくということと、最初に育成会が立ち上がつた時の親とそれを支えてくださつた先生方の思いとかを私達が持つて若い世代に接して伝えていくことも、育成会の活動の一つでもあると思うんですよね。

還元していくということ

齋藤 会の運営をしてこられる中で、これ一番頑張ったなっていうか、燃えたなみたいな取り組みって、やっぱりサマースクールとかが思い出深いですか？

久保 サマースクールもそうですけれども、やっぱり夢翔会をつくる時が一〇年ほどかかってできましたし、やっぱり九団体も一緒にいると、それぞれ言うことが違いますでしょ。入所施設一つをつくるのが目的ではないから、みんなの日々の暮らしの中に、役立つものをみんなでつくつていく為の最初の取っ掛かりなんだからということを、一〇年間、一生懸命説明したり説得したりしてきたので、そこがやっぱりしんどかった部分でもあるし、今思えば一生懸命やつて遣り甲斐があつたなあというのもありますね。まとめるのが大切だけど、大変なんです。

しが夢翔会は入所施設をつくつたら終わりではなく、還元しないとダメっていうか、その為にお役に立つことをやらないとダメっていう使命があると、職員にはいつも言つてるんですね。

山本 では、私も最後に一つだけおうかがいしたいと思います。活動をしてこられる中で良かったなつて思える瞬間とか、あるいは活動する前と、こういうところが変わった

かも知れないとか思われるところがありましたら。久保 やつていて良かつたなあと思うのは、形として成果がある、例えば夢翔会のように一つのものができるつていのものやつて良かつたなあと思います。

あと、嬉しいなあと思うのは、全国大会とかいろんなところに行くと、本人さんからいっぱい声かけてもらえるようになつたんですね。みなさん、フレンドリーに扱つてくださるんですよ。特に本人さんがね。向こうが覚えていてくださつて、会長さんだと理事長さんだとかいう言い方じやなくて、「久保さん」って声かけてくれるのね。嬉しいですよね。そして、「元気?」みたいなことも言つてくれるし、「頑張つてね」つてそこで最後に言われるんだけれども（笑）・「はい」つて言うしかないんだけれども（笑）。県内だけでやつてているよりももつとたくさんの人人が声をかけてくれるようになつたので、みんな、自分達のことを代わりに言つてくれている人か、みたいに思つてくれているのかなあと思つて、一体感を感じるんですよ。本人さんとも一緒にやつているつていう実感が持てるつていうか。だつて、育成会つて本人の為にやつてるんですもんね。

山本 今日は貴重なお話をきかせていただいて、ありがとうございました。